

平成27年度

長期研修者研究抄録



鹿児島県総合教育センター

平成27年度長期研修研究主題一覧

番号	教科等	氏名 (勤務校)	研究主題
1	情報教育	白尾麻衣 (鹿児島市立 本名小学校)	児童のICT活用による情報活用の実践力の育成 －自ら考え、発信できる力を育む学習指導の工夫を通して－
2	理科	井上博和 (日置市立 伊集院小学校)	根拠を明確にして推論できる児童を育成する理科学習指導の在り方 －互いの考えを生かし、高め合う活動を重視した授業を通して－
3	キャリア教育	永田大輔 (長島町立 鷹巣小学校)	飽くなき向上心を抱く児童の育成を目指したキャリア教育の創造 －第6学年における各教科等を有機的に関連付けた授業実践を通して－
4	外国語活動	香川由美子 (伊佐市立 大口東小学校)	自ら英語でコミュニケーションを図ろうとする児童の育成 －小学校英語科の導入を見据えた、基本的な表現の定着に焦点を当てた学習指導の工夫－
5	道徳	坂下泰洋 (湧水町立 吉松小学校)	児童が他者とのよりよい関わりの中で自己への問い掛けを深める道徳の時間の在り方 －「相互理解、寛容」の指導を通して－
6	国語	池田貴裕 (薩摩川内市立 川内北中学校)	進んで自分の考えを伝え合う力を高める国語科学習指導の在り方 －思考の活性化を導くアクティブな交流を通して－
7	国語	日高佳子 (志布志市立 松山中学校)	生徒の主体的な学びを引き出す国語科学習指導の在り方 －社会科や理科との連携を図った説明的文章における 単元構想と言語活動の工夫－
8	数学	前平勝 (瀬戸内町立 古仁屋中学校)	数学において「活用する力」を育成するための学習指導の在り方 －授業展開の工夫を通して－
9	国語	上田美和 (鹿児島県立 開陽高等学校)	漢文を読む能力を養い、関心を深めることができる学習指導の在り方 －漢文における広がりのある学習指導を通して－
10	特別支援教育 (高・外国語)	染川加奈子 (鹿児島県立 鹿児島高等特別支援学校)	知的障害のある生徒のコミュニケーション能力を育む外国語科の指導 －高等特別支援学校版CAN-DOリストの開発、活用を通して－

番号	教科等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
1	情報教育	白尾 麻衣	鹿児島市立本名小学校	<p>児童のICT活用による情報活用の実践力の育成</p> <p>—自ら考え、発信できる力を育む学習指導の工夫を通して—</p>	<p>本研究は、情報活用能力の中でも、児童のICT活用による情報活用の実践力の育成に関わる一連の学習指導について、実践研究したものである。</p> <p>具体的には、情報活用の実践力における、特に「判断」、「表現」、「発信」などの育成をねらいとし、児童がICTを活用しながら、自ら考えたり、発信したりするような学習指導の工夫や授業構想、単元指導計画を作成した。</p> <p>これらを基に、タブレット端末や授業支援アプリを用いた児童によるICT活用を組み込んだ授業を行い、検証を行った。</p> <p>その結果、タブレット端末と授業支援アプリを用いた、児童によるICT活用は、児童の学習意欲の向上と持続に効果的であった。また、単元及び1単位時間を通して、児童によるICT活用を推進し、問題解決的な学習場面において、その指導法を工夫することで、児童の「ICTを使ってまとめたい、表現したい。」という意識が高まり、進んでICT活用を行う姿が見られるようになった。このことから、本研究の取組により、児童の「情報活用の実践力」の育成が図られた。</p>
2	理科	井上 博和	日置市立伊集院小学校	<p>根拠を明確にして推論できる児童を育成する理科学習指導の在り方</p> <p>—互いの考えを生かし、高め合う活動を重視した授業を通して—</p>	<p>本研究は、問題に対する予想や仮説を設定したり、観察、実験の結果に基づいて考察し結論を導き出したりする場面に焦点を当て、根拠を明確にして推論できる児童の育成を目指した理科学習指導の在り方について研究したものである。</p> <p>具体的には、根拠を明確にして推論できる児童を育成するために、「考えの可視化」と「考えの交流」を重点化し、「考えの可視化や交流を位置付けた学習過程モデル」の作成を行った。特に、図やモデルを用いて思考・表現したり、考えの相違点や共通点に着目して交流したりする活動の充実を図ったことで、科学的に妥当な推論を行う児童の姿が見られるようになった。</p> <p>このようなことから、互いの考えを生かし、高め合う活動を重視した授業を行うことは、根拠を明確にした推論を行う上で有効であることが分かった。</p>
3	キャリア教育	永田 大輔	長島町立鷹巣小学校	<p>飽くなき向上心を抱く児童の育成を目指したキャリア教育の創造</p> <p>—第6学年における各教科等を有機的に関連付けた授業実践を通して—</p>	<p>本研究は、飽くなき向上心を抱く児童の育成のために、キャリア教育の視点に基づいた各教科等の指導の在り方について研究したものである。</p> <p>具体的には、まず、本校の実態を基に、キャリア教育の基礎的・汎用的能力の育成の視点で年間計画や指導計画を見直し、各教科等を有機的に関連付けた授業の構想を行った。次に、道徳の時間や学級活動を中核とし、前時までの学習を振り返る工夫、基礎的・汎用的能力の要素に焦点化した発問の工夫、地域の人材を生かした工夫を取り入れた授業を展開した。</p> <p>その結果、児童の夢や目標に対する取組への意欲が高まり、粘り強く学習等に取り組む重要性を理解させ、よりよい生き方について考える意欲が高まるなど、小学校において今後求められる、キャリア教育の方向性を探ることができた。</p>

4	外国語活動	香川 由美子	伊佐市立大口東小学校	<p>自ら英語でコミュニケーションを図ろうとする児童の育成</p> <p>ー小学校英語科の導入を見据えた、基本的な表現の定着に焦点を当てた学習指導の工夫ー</p>	<p>本研究は、自ら英語でコミュニケーションを図ろうとする児童を育成するために、基本的な表現の定着に焦点を当てた学習指導の工夫に関する研究を行ったものである。</p> <p>具体的には、第二言語習得の過程を明確にして基本的な表現の定着に焦点を当てた単元の指導モデルを作成した。また、「認知プロセスを踏まえた学習指導の工夫」、「見直し、振り返りの充実」、「単位時間ごとの学習内容をつなぐ工夫」の3工夫を設定して実践を行った。</p> <p>その結果、自ら英語で話し掛けたり、伝え合おうとしたりしながらコミュニケーション活動に取り組むという目指す児童の姿に近付けることができた。</p>
5	道徳	坂下 泰洋	湧水町立吉松小学校	<p>児童が他者とのよりよい関わりの中で自己への問い掛けを深める道徳の時間の在り方</p> <p>ー「相互理解、寛容」の指導を通してー</p>	<p>本研究は、道徳的価値について自己への問い掛けを深めるための視点を設定し、それを基に対話を行う道徳の時間の在り方について研究したものである。</p> <p>具体的には、まず、内容項目Bー(11)「相互理解、寛容」における道徳的価値について分析し、人を許したり、許さなかったりする際の判断の根拠となる視点を6点設定した。そして、それを基にした「中心発問、補助発問」や「共有ボード」、「6視点を基にした生活場面シート」を用いた対話の工夫を行った。</p> <p>その結果、児童が「相互理解、寛容」の指導を通して、6視点を基にしながらか他者とのよりよい関わりの中で自己への問い掛けを深める姿が見られた。</p>
6	国語	池田 貴裕	薩摩川内市立川内北中学校	<p>進んで自分の考えを伝え合う力を高める国語科学習指導の在り方</p> <p>ー思考の活性化を導くアクティブな交流を通してー</p>	<p>本研究は、「進んで自分の考えを伝え合う力」を高めるために、「読むこと」の領域を中心に、「思考の活性化を導くアクティブな交流」を通して「確かな自分の考え」を形成させる国語科学習指導の在り方について研究したものである。</p> <p>具体的には、まず、「確かな自分の考え」の形成を図るための指導計画(学習過程)を構想した。次に、「学習課題設定の工夫」や「思考ツールの活用」を行い、根拠や理由等を基にした「自分なりの考え」の形成を図った。さらに、交流の目的や思考の種類を明確にして小集団を編成したり、教師の適切な関わりを工夫したりすることで、「アクティブな交流」を行い、「確かな自分の考え」の形成を図った。</p> <p>その結果、自分の考えに自信をもって表現したり、理解したりする生徒の姿が多く見られるようになった。また、「思考の活性化を導くアクティブな交流」を通して「確かな自分の考え」の形成を図ることが、「進んで自分の考えを伝え合う力」を高めることにつながることを明らかにすることができた。</p>
7	国語	日高 佳子	志布志市立松山中学校	<p>生徒の主体的な学びを引き出す国語科学習指導の在り方</p> <p>ー社会科や理科との連携を図った説明的文章における単元構想と言語活動の工夫ー</p>	<p>本研究は、生きて働く国語の能力を育成するため、生徒の国語科の学びの意義や価値を実感させ、生徒の主体的な学びを実現する国語科指導の在り方を追究したものである。</p> <p>具体的には、「社会科や理科との連携を図った単元構想」、「社会科や理科の学習を国語科の観点で見取る方法」、「評価の在り方」の工夫を行った。その結果、国語科の学習を他教科の学習で生かすことができると実感した生徒の学びが主体的になっていく姿を多く見ることができた。生きて働く国語の能力を螺旋的に高めていくためには、国語科のみならず、実生活の様々な場面における言語活動を想定しながら、課題解決的な学習や評価の充実を図っていくことの重要性が明らかになった。</p>

8	数学	前平勝	瀬戸内町立古仁屋中学校	<p>数学において「活用する力」を育成するための学習指導の在り方</p> <p>—授業展開の工夫を通して—</p>	<p>本研究は、中学校数学科において「活用する力」を「構想・実践」、「評価・改善」、「解釈、処理・日常化」、「記述・説明」の4点とし、「活用する力」を育成するために、学習課題の組立ての工夫と記述・説明する場の設定の工夫について研究したものである。</p> <p>具体的には、1単位時間の授業の中で得られた考えを更に深めさせたり、広げさせたりするために、学習課題を6種類に分類し生徒の実態に応じて設定していく工夫と、導入、展開、終末において生徒が記述・説明する場を「活用する力」の育成と関連付けながら取り入れる工夫を行った。</p> <p>その結果、生徒は得られた考えを新たな課題に適用し、日常生活と関連付けて考え、学んだことを日常生活に生かしたりすることができるようになった。</p>
9	国語	上田美和	鹿児島県立開陽高等学校	<p>漢文を読む能力を養い、関心を深めることができる学習指導の在り方</p> <p>—漢文における広がりのある学習指導を通して—</p>	<p>本研究は、漢文を読む能力を養い、関心を深めることができる学習指導の在り方について、単元構想を通して広がりのある学習指導を実践研究したものである。</p> <p>具体的な視点は、指導事項及び単元の目標にふさわしい「広がりのある学習指導の単元構想」、年間を通してバランスの取れた漢文指導を行うための「年間指導計画の作成」、生徒の主体性を生かした課題解決型の学習過程の明確化を行うための「言語活動の具体化」の3点である。</p> <p>その結果、生徒が漢文を主体的に読み、漢文を読む能力を身に付けるとともに、漢文に親しみ多方向の視点から内容を推察したり、作品の執筆の動機を推察したりすることができた。さらに、読み比べたことや考察したことについて話し合う言語活動にも成果が見られた。</p>
10	特別支援教育	染川加奈子	鹿児島県立鹿児島高等特別支援学校	<p>知的障害のある生徒のコミュニケーション能力を育む外国語科の指導</p> <p>—高等特別支援学校版CAN-DOリストの開発、活用を通して—</p>	<p>本研究は、高等特別支援学校における知的障害のある生徒のコミュニケーション能力を育む外国語科の指導についての研究である。</p> <p>具体的には、外国語科の指導目標に即し、生徒に特に必要なコミュニケーション能力を明らかにした。また、生徒の学習上の特性を踏まえて開発した高等特別支援学校版CAN-DOリストを効果的に活用するための授業づくりの工夫について整理し、これらを取り入れた検証授業を実施した。</p> <p>その結果、開発したリストを生徒と共有し、活用するとともに、授業づくりの工夫を行うことによって、生徒が英語に興味・関心をもち、学習に対して意欲的に取り組み、ジェスチャーなどを用いて「なんとかして」自ら積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿を見ることができた。</p>